

第13回富良野地区定住自立圏共生ビジョン懇談会の開催結果について

1. 開催日時

令和5年7月25日（金）午後6時～午後7時30分

2. 開催場所

富良野文化会館 A・B会議室

3. 出席者

委員 9名（欠席委員 5名） オブザーバー 4名 事務局3名

○出席委員

市町村名	団体名	職名	氏名
上富良野町	ふらの農業協同組合	北地区運営委員長	西木 晴彦
上富良野町	上富良野町社会福祉協議会	事務局長	久保田 教之
中富良野町	中富良野町立病院運営委員会	委員長	高崎 見一
南富良野町	南富良野町社会福祉協議会	常務理事	佐々木 之孝
富良野市	北海道社会事業協会病院	事務部長	菅原 昭洋
富良野市	エクウエート富良野	理事長	久田 茂
富良野市	ふらのスポーツ協会	専務理事	遠藤 和章
富良野市	富良野地域人材開発センター運営協会	専務理事	原 正明
富良野市	ラジオふらの	無線技術士	丸山 太一

○オブザーバー（町村職員）

市町村名	所属名	氏名
上富良野町	企画商工観光課長	狩野 寿志
中富良野町	企画課長	酒井 拓美
南富良野町	企画課企画振興係長	西川 達哉
占冠村	企画商工課長	平岡 卓

○事務局

市町村名	所属名	氏名
富良野市	総務部長	関澤 博行
富良野市	総務部企画振興課長	小笠原 竹伸
富良野市	総務部企画振興課企画振興係長	猪股 俊弘

【司会進行：小笠原企画振興課長】

4. あいさつ

【関澤総務部長】

・本日は、夜分、ご多用にもかかわらず、富良野地区定住自立圏共生ビジョン懇談会にご出席いただきありがとうございます。私から懇談会開催にあたり一言ごあいさつ申し上げます。

・定住自立圏構想は、地方圏において安心して暮らせる地域を各地に形成し、地方圏からの人口流出を食い止めるとともに、地方圏への人の流れを創出するために圏域ごとに「集約とネットワーク」の考えに基づき、一定の都市機能を有する市が、周辺の町村とお互い連携・協力し、圏域全体の活性化を図るため、平成21年度からスタートした国の制度であります。

・富良野地区では、平成25年9月に富良野市が「中心市宣言」を行い、同年12月に「生活機能の強化」「結びつきやネットワークの強化」「圏域マネジメント能力の強化」で合計36事業にわたって連携を図る富良野地区定住自立圏形成協定を1市3町1村で締結して以降、取り組みを進めてきたところです。

・本日の懇談会では令和4年度の富良野地区定住自立圏共生ビジョンの取組結果の報告とあわせまして、本年度で本ビジョンの計画期間が終了することに伴います、新たな第3次共生ビジョンの策定の方向性につきまして、委員各位のご意見をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

5. 座長及び副座長の選出

- ・座長 富良野地域人材開発センター運営協会 専務理事 原 正明
- ・副座長 北海道社会事業協会病院 事務部長 菅原 昭洋

6. 議題

(1) 富良野地区定住自立圏共生ビジョンの取組結果について

【報告：猪股企画振興係長】

別紙資料1-1及び1-2について報告

※取組結果に関する各委員からの意見はなし

(2) 第3次富良野地区定住自立圏共生ビジョンの策定について

【説明：猪股企画振興係長】

別紙資料2-1及び2-2、3-1、3-2について説明

○策定方針（案）に関する各委員からの主な意見について

委員名	意見等	回答
原座長	資料3-1策定方針（案）の3計画期間について、令和11年度を目標年次とした5か年計画と記載があるが、わかりづらいのではありませんか。シンプルに令和10年度までとしてはどうか。	（事務局） ご指摘のとおり、「令和10年度までを計画期間とした5か年計画にする」ことで修正する。
遠藤委員	資料3-2策定スケジュール（案）で12月にパブリックコメント手続きを行うことになっているが、この手続きは中心市の富良野市だけで行うのか、他の町村でも行うのか。 沿線住民の声を拾う機会はないのか	（事務局） 中心市の富良野市のみでパブリックコメント手続きを実施します。 （事務局） 制度の立て付けとしては、共生ビジョンは中心市で策定することから、構成町村でのパブ

		リックコメント手続きは不要と考えているが、手続きを否定するものではないので、他の自治体の事例も含め、調査していきたい。
--	--	-------------------------------------------------------------

※策定方針（案）について承認

○策定内容に関する各委員からの主な意見について

委員名	意見等	回答
菅原委員	医療の立場から現状について発言させていただく。昨年4月以降富良野協会病院の循環器内科の常勤医が、また、脳外科の常勤医もこの圏域には不在となっている。循環器内科の医師がいないと死因の3大疾病と言われる心筋梗塞や脳梗塞の対応が今の富良野圏域では出来ない。病院としても大学等をお願いしているところだが、厳しい状況である。住民が安心してこの地域で暮らすためにも、病院としても医師確保を進めていきたいと考えている。さらに、看護師不足も深刻である。協会病院だけでなく、地方の病院が抱えている課題であり、協会病院もここ3年で看護師が約30名減少している。コロナの関係で入院患者が減っていることから、なんとか対応できていたが、地域包括ケア病棟の開設など地域医療に必要なことを看護師不足のため出来ていない状況である。医療の課題をみなさんと共有させていただき、引き続きの連携・協力をお願いしたい。	(原座長) 医療については、安心して地域で暮らすためにも非常に重要なもの。圏域全体での課題解決に向けた取組が必要と考える。
久田委員	福祉の立場から、子育て支援、障がい児の自立活動支援の療育施設の広域利用について発言させていただく。占冠村、南富良野町から富良野市での利用申し込みがある。家庭の経済事情から、共働きが多く、働きながら6歳未満の子どもの送迎の負担は大きいので、私たちは施設として送迎を行っているが、車両や送迎ドライバーの確保など財政的・人的な負担が大きくなっている。占冠村、南富良野町で療育施設があれば良いのですが、すぐには難しい。こうした財政的な負担が少しでも解消できるような支援があればありがたい。	(原座長) 広域は面積が広く、様々な形での負担があるということで、こうした課題の解決に向けてみなさんと知恵を出し合いながら、より良い形になればと考える。
遠藤委員	スポーツの関係ですが、中学校の部活動の地	(原座長)

	<p>域移行について、教育委員会と学校を中心に協議が進んでいるかと思われるが、これからさらに少子化が進むなかで、これまでのような学校単位での部活動は難しく、自治体単位になるのか、広域での単位になるのか、今までの部活動とは違う形でないと存続は難しいと考える。ぜひ、沿線で部活動の地域移行についての検討をお願いする。</p>	<p>子どもたちの移手段等、様々な課題も出てくると思う。この件に関してもみなさんから知恵が必要となる。</p>
丸山委員	<p>防災の立場から、ラジオふらののエリア拡大を進めてきて、現状、富良野市街・東山・中富良野町の一部で視聴が可能となっている。なお、出力数が総務省の規定で決まっていますので、現状ではこれ以上の広げていくことは難しく、沿線の住民に防災情報を届けるため、プッシュ通知も可能な、サイマルラジオの検討を進めている。関係自治体との連携も不可欠ですので、連携・協力をお願いする。</p>	<p>(原座長) 今までのやり方では難しいが、発想の転換でやれることもあるのが今の発言かと思えますので、防災・ラジオ以外にもこうした視点で取り組みを進めることも大事かと考える。</p>
高崎委員	<p>町立病院の運営委員を担っていて、先ほど菅原委員より協会病院の課題の話があったが、地域医療の確保は住民が安心して暮らしていくためにも不可欠であり、圏域全体での対応を引き続き、進めていくことが必要と考える。</p>	
西木委員	<p>ふらの農協は合併農協として23年目を迎えているが、広域のため、それぞれの思いが中央に届きにくい部分がある、また、農家戸数も減少も進んでいる状況がある。私たちの地区では、農地の利用を進めるための農地区画整備等を進めた結果、効率的な農地になってきたと感じている。</p>	<p>(原座長) 農家戸数については減っているが、農地については少ししか減っていない。一定の農家が引き受けている現状があるかと思う。</p>
久保田委員	<p>物流関係ですが、トラックドライバー不足のなか、ドライバーの確保が難しい状況である。農産物を運ぶにはJRを活用するのが一番コストを抑えられることから、国と北海道では存続という話にはなっているが、今後において市町村や関係者・生産者に負担が求められる可能性もあると思われる。JRの存続に向けて、沿線での要請活動等が必要となると考える。</p>	<p>(原座長) 富良野地区は消費地と離れた生産地ですので、長距離の輸送、2024年度問題も含め大きな課題である。</p>
佐々木委員	<p>福祉分野では、人材不足が大きな課題で、人口は減っていて、高齢者も減っているが、高齢者を支援する職員をどれだけ募集をかけても応募がない。海外からも来てもらっているが、全然追いついていない。特に地方は集ま</p>	<p>(原座長) 切実な問題であり、どの分野でも労働力不足は大きな課題となっている。既存の方法で難しい場合は、新しい発想も必要かと思う。こうした会議でそうした知恵を出し合う場と</p>

	りづらく、入っても何年か経験を積んでやめる方もいる。介護職員だけでなく、事務職員も同様に集まらない。非常に苦慮している。	なることも必要と考える。
久保田委員	先ほど佐々木委員からもありましたが、人口減少については、子どもだけでなく、高齢者も減っている。高齢者が減る要因の一つとして、都市部にいる家族から、呼び寄せられている現状もある。本当は、最後まで住み続けられる地域であれば良いのですが、そうした要素がないために、子どもたちに呼び寄せられて、住み続けた地域から離れざるえない状況となっている。こうした方が出来れば亡くなるまで、住み慣れた地域で過ごせるよう、例えば、山のなかに住んでいる方は、住宅に関する支援の仕組みを作ることや、免許返納が必要な方のために地域の公共交通の整理や自動運転の技術を取り入れるなど、地域に残ってもらえるような地域づくりが必要かと思う。	

【原座長】

※以上、多くのご意見ありがとうございました。後ほど気付いた点等あれば、それぞれの市町村の担当者にお伝えください。

7. その他
特になし